

1. 件 名：実機材研究に関する意見交換
2. 日 時：令和3年11月18日(木)16時00分～17時15分
3. 場 所：原子力規制庁 16階D会議室（Web開催）
4. 出席者
原子力規制庁長官官房技術基盤グループ
システム安全研究部門
小嶋上席技術研究調査官、河野主任技術研究調査官、橋倉主任技術研究調査官、北條主任技術研究調査官、船田技術参与

原子力エネルギー協議会：1名
九州電力株式会社：2名
三菱重工業株式会社：3名
ニュークリア・デベロップメント株式会社：1名

5. 要旨

原子力規制庁（以下「規制庁」という。）が実施する安全研究プロジェクト「実機材料等を活用した経年劣化評価・検証に係る研究」のうち、「原子炉圧力容器の健全性評価に係る研究（2020年度～2024年度）」において使用を予定している監視試験片について、借用元の九州電力株式会社より、廃止措置工程を勘案した監視試験片輸送予定、輸送後の試験場所の希望について説明があった。

今年度は稼働プラントの監視試験を優先させる必要があるため、輸送容器の確保が難しく、試験場所への輸送等が困難であるとの説明があった。また、試験場所については、過去の試験実績等を勘案し、ニュークリア・デベロップメント株式会社（以下「NDC」という。）を希望しているとのことであった。

さらに、試験場所への輸送は、今のところ2023年1月に可能で、NDCで試験を実施する場合、2023年度にドシメーター分析、2024年度にシャルピー衝撃試験及び破壊靱性試験を実施できる見込みとの説明があった。

規制庁からシャルピー衝撃試験の実施を早められないかとの問いに対して、三菱重工業株式会社とNDCで協議し、後日に2023年度中に試験が可能な範囲の報告を受けることとなった。

6. その他

提出資料：特になし。